

国際交流

平成9年9月30日創刊

平成28年9月30日発行(第38号)

二松学舎大学国際交流センター

〒102-8336東京都千代田区三番町6-16

Tel:03-3261-5751

◆目次◆

平成28年度春 Semester 交流会実施報告

国際政治経済学部1年 伍 雪連	1
平成27年度海外協定校教職員相互訪問制度による北京大学訪問について	
文学部 磯 水絵教授	2
派遣留学修了報告	
文学部 中国文学科3年 松川 千夏(成均館大学校派遣)	2
国際政治経済学部 国際政治経済学科(平成27年度卒業)	
野澤 翔(シドニー工科大学派遣)	3
交換留学生留学修了報告	
北京大学 高 療	4

浙江工商大学 呉 晨陽	4
浙江工商大学 陳 旭	5
浙江工商大学 陳 麗暎	5
浙江工商大学 劉 麗蓉	6
中国文化大学 許 瑞玲	6
中国文化大学 曾 運宏	6
平成28年度夏期中国語・歴史文化研修実施報告	
文学部 中国文学科2年 大城 優妃	7
平成28年度秋 Semester 交換留学生紹介	8
国際交流センターからのお知らせ	8

平成28年度 春 Semester 交流会実施報告

二松学舎大学では、国際交流の一環で、留学生に日本の文化・自然・歴史等に触れてもらおうと、留学生参加の交流会を行っています。

本年度春 Semester の留学生交流会は、平成28年6月25日(土)に実施され、春から本学への留学が始まったばかりの交換留学生(北京大学・中国文化大学・浙江工商大学)を含む21名の外国人留学生が参加しました。交流会には、塩田今日子国際交流センター長も参加され、午前中は、東京ドームボーリングセンターでボーリングを楽しみ、午後は東京ドームのレストランで昼食懇親会を行いました。

大学生生活とボーリング大会の感想

国際政治経済学部 国際政治経済学科1年 伍 雪連



二松学舎大学に入学してもう4ヶ月が経ちました、私は留学生として日本語が上手ではないけれど、毎日、日本人のクラスメートと一緒に勉強をし、先生や友達のおかげで、大学の勉強や生活に慣れ、楽しくなってきました。特に国際交流センターの皆さんには、学校生活や勉強の悩み

なども相談にのって頂き、本当にありがたいと思っています。

6月に留学生のみさんと先生方と一緒に東京ドームシティでのボーリング大会に参加しました。ボーリングが初めての私は、とても緊張しましたが、だんだん上手に投げられるようになってワクワクして、とても楽しかったです。

7月になってからいろいろな授業のレポートが増えてきて、自分の力でレポートを書くことで、沢山の知識が身についてきました。また、日本語もだんだん上手になってきました。今は大学生生活がとても充実しています。卒業



ボーリング会場にて留学生の皆と(筆者中央)



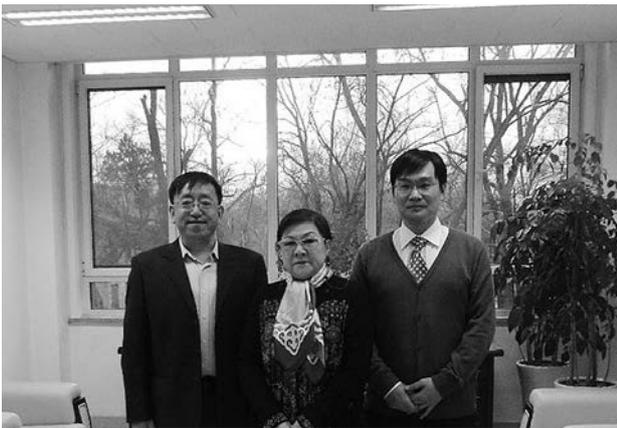
ボーリングのチームメイトと(筆者中央)

までこの楽しい学生生活を続けたいと思っています。そして、日本人の友達をたくさん作って日本文化をもっと理解し、卒業後に日本で生活が出来るように頑張りたいと思います。

平成27年度 海外協定校教職員相互訪問制度に基づく北京大学訪問

平成13年度に始まった北京大学歴史学系との海外協定校教職員相互訪問制度は、平成27年度で第12回目を迎えました。今回は、平成28年2月26日（金）から3月2日（水）の5泊6日の日程で、本学副学長の磯水絵教授が中国・北京大学を訪問しました。訪問初日に北京大学内の人文学苑5号楼にて、北京大学歴史学系の長である張帆教授をはじめとした先生方の歓迎を受け、期間中は学内外の歴史的建造物等を見学したり、本学からの留学生と懇親の時を持つなどし、2月29日（月）には、記念講演会が開催され、同行した劉瀟雅さん（文学研究科博士後期課程）の通訳によって磯先生が学内（文史楼115室）で講演を行いました（「敦煌からの旅路—日本の風神・雷神図をめぐって—」）。

今後も相互訪問制度を継続的に実施し、両大学の学術交流を積極的に推進します。



張帆主任（左）と沓涛副主任（右）と記念撮影



記念講演会にて

派遣留学修了報告

韓国・成均館大学校

文学部 中国文学科3年 松川 千夏



韓国へは過去に4、5回は行っていますが、約1年間の留学ともなると緊張や不安、留学に対する少しの期待感で、出発前から気持ちが落ち着かない状態が何日も続きました。もしも現地の人に何か言われたら、友達ができなかつたら、というマイナスな考えしか思いつかず、言語もある程度習得し意思疎通もできるはずなのに、正直精神的に負担の大きいスタートでした。

しかしそんな不安は1か月後にはほとんどなくなり、現地の友人だけでなく様々な国の留学生ともすぐに打ち解けられるようになりました。3月から6月までは語学堂で毎日約4時間韓国語を学習し、9月からの大学での正規プログラムを受けるためにコツコツと勉強をしました。

語学堂ではいきなり5級からのスタートで、教材を見ると単語の数は課ごとにとっても多く、使ったことのない高級文法がずらりと並んでいるのを見て、周りの学生たちについていけないのか不安にかられました。しかし韓国語を専門的に学んだ韓国人の先生たちのわかりやすい説明と、自分の韓国語学習に対する短所や長所を教えてもらうことにより、効率の良い勉強方法を身に付けることができました。ある先生の助言のおかげで映画をみる習慣が身に付き、聞き取りや対話能力が向

上したと指摘されたこともありました。

そうして授業でだんだんと慣れていきながら5級6級と進んでいき、語学堂は無事卒業、9月からは大学で正規プログラムを履修してきました。正直、ほとんどの授業が外国人向け授業で、韓国の大学の授業というものを体験しきれませんが、オンライン授業では現地の学生と同じ授業を聞き、討論にも参加しました。そのオンライン授業が、東洋思想（主に中国思想、ヒンドゥーやイスラム圏の宗教、哲学について）で、思ったよりも難しく、また、哲学的な思想を養い熟考するため、遠回しな表現や難しい単語が数多く見られ、付いていくのが大変でした。

この授業では中国思想の部分に限らず、一課に必ず一つ以上漢字が登場していました。最初は何がこの話に関係しているのだろうか？という漢字でも甲骨文字から金文、小篆、隸書、現代の漢字までひとつひとつ部首を取りながらの説明を聞いていると、成り立ちを考えてみれば納得のいく、毎回感心させられるような内容でした。成均館大学校では特に儒学を深くまで掘り下げて勉強するスタイルなのですが、それに加え、他の思想や宗教の教え、哲学を学ぶことによって物事の考え方の視野が広がったような気がします。それからこの授業に限らず、授業内で発表、討論することが多いのが韓国と日本の大学の大きな違いでもあるなと思いました。一人で発表する際には考え出すことからまとめあげるまでもちろん自分の思うとおりに進められますが、韓国の大学ではチームプレゼン

テーションが多く、チームでひとつの発表を行わなければならないので、コミュニケーション能力や自分の意見をいかに論理的かつわかりやすく説明できるかの能力向上につながったと思います。それでもまだチームリーダーに頼ることが多かったし、焦りと緊張の日々でしたが、自分の意見を言うことと、発表分野に詳しくなれたことで自信を持てるようにもなりました。

一喜一憂したり、また何も考えたくない日もあったり、楽しくて仕方がない日もあったりと様々でしたが、留学生活は私にとっては大切な日々であり、自分自身を成長させてくれたとてもいい機会になりました。この約1年間を忘れず、これからもっと韓国語にも私生活にも、一生懸命に取り組んでいきたいと思っています。



語学堂の友達とソウル郊外へ（筆者：後方左）

オーストラリア・シドニー工科大学 (UTS)

国際政治経済学部 国際政治経済学科
(平成27年度卒業) 野澤 翔



私は3年生の時に、短期間の語学研修を希望していました。しかし、それと同時に跆拳道部に所属していた私は、大会で靭帯損傷と脛骨骨折によりその研修を辞退せざるを得ませんでした。そんな失意の中、見つけたのがUTS

への一年間の留学でした。

大学入学以前から、学生のうちに、いつかは海外の大学で、自分の専攻に関係なく、海外の言語で授業を受けたいという思いがあり、それを叶える絶好の機会だと感じて、両親と相談の上、四年間で大学卒業を交換条件に応募しました。選考の結果、昨年二月から今年一月まで充実した留学生活を送ることが出来ました。

しかし、UTS入学当初の私の英語力は、非常に低く、特に話すことで苦労したことも多く、最初の三ヶ月は毎日が苦痛でした。どうやったら、もう少し話せるようになるのか、聞き取れるようになるのかを自問自答したり、大学内にある留学生向けの無料講座に出席したりして改善策を探し続けまし

た。そんな中でも、現地での外国人の友達や先生は、常に自分のことを気にかけてくれて、それが励みになり苦しい日々も乗り越えることが出来ました。また、UTSで私が受講した授業内容は、英語力の基礎を大切に、様々な角度から英語力の向上を目指すことを目標にしていました。

特に、最初のセメスターで受講した、Australian languages and studiesでは、会話表現を初め、IELTS等のテスト対策をメインに、日常生活でも、即効性のある授業内容でした。この授業のおかげで多様な会話表現を習得することができ、コミュニケーション能力の向上にも非常に役立ちました。他の授業では、その英語表現を土台にオーストラリアにおける社会事情や、文化をプレゼンテーション形式で発表したり、自分自身で第三者にインタビューをしてレポートまとめたりと、ライティング能力の向上にも非常に役立ちました。後期はオーストラリアの自然についてレポート、プレゼン、小論文の三つを一つの授業で取り扱い、そこではレポートの正しい書き方、小論文のまとめ方等、難しい中でもやりがいのある授業内容でした。

授業以外にも、Japanese societyのメンバーになって日本語を現地の学生に教えたり、休日は外に出て交換留学生同士やMBA取得を目指す学生と一緒に、海や山に小旅行に行ったりと、英語力が向上するとともに友達の輪も広がって、留学自体の楽しさや英語に対する向上心も、徐々に肌で感じるようになってきました。

そこで、重要だと感じたことは、人一倍の向上心を持ち、常に自分自身で地道に、誰よりも努力を積み重ねることです。留学と聞くと、現地の人と一年間以上居れば、現地の言葉が話せる、他言語を習得できると思われがちですが、それは大きな誤解です。自分自身で、他言語を習得することがいかに難しく大変なことであるかは、この一年で感じる事が出来ました。また、ここで英語力を下げることなくUTSでの経験を今後の人生で、最大限生かせるようこれからも努力を続けることが私の使命であると感じています。そして、この留学に際して常に、様々な面で支援してくれた家族、英語が喋れない時に励ましてくれた友人や先生、そして最後の最後まで全力でバックアップして下さった国際交流センターの職員の方々、周囲の方々の素晴らしい支援があってこそ、私の留学は大変素晴らしいものになったのだと思います。本当に心から感謝申し上げます。



最高のパーティーを最高の仲間達と（筆者：後列中央）

交換留学生終了報告



留学感想

中国・北京大学 高 療

一年間とは、長いと言えば、確かに長いですが、ある程度短いとも言えます。昨年9月に日本に来たばかりの頃は、日本語がなかなか話せませんでした。今も上手とは言えませんが、前よりかなり良くなってきました。今は少なくとも勇気を出して話すことができていると思っています。ここまで日本語が上達したのは、二松学舎大学の先生方と友人達のお陰です。留学半年前の手続きや準備、来日後の生活と勉強なども皆様に助けていただき、本当に感謝しています。

この一年間で、日本語の向上に努めたり、専門知識を付ける為に勉強したり、様々な活動に積極的に参加したりしました。人生初の一人暮らしとなる日本での留学生活を通して、自分自身がどんどん成長できたと感じています。学校だけではなく、地域での活動や旅行先でもいろいろな感動をもらいました。日本の方々と交流するなかで、日本社会の伝統文化と現代文明を体験しながら、「中国は日本の何を見習うべきだろうか?」といつも考えています。答えを出すのは難しく、まだわかりませんが、近い将来に一人ひとりの留学生の努力を通じてきっと良い結論が出ると信じています。そして、この美しい日本で、充実した留学生活を過ごすことができ、この一年間はあっという間に過ぎてしまいました。この経験を一生の記念にして、中日友好にできる限る力を尽くしたいと考えています。

日本、またね!



秩父でのぶどう狩り



日本に留学して本当によかった

中国・浙江工商大学 吳 晨陽

時間が経つのは本当に早いものだ。あっという間に半年間の留学生活がもうすぐ終わる。3月17日、羽田空港に着いた時、実は、外国にいる感じはあまりなかった。皆がアジア人だから、顔を見るだけでは、日本人と中国人の区別はつかないと思う。国際交流センターの方に連れられ、数回電車を乗り換えて、アパートに着いた。清潔な街を歩いて、青い空を見て、周りの人々の話している日本語を耳にして、本当に日本に来たと感じた。アパートはちょっと小さいけれども、一人暮らしに必要な生活家電が付いていて、周りにコンビニとスーパーなどがあって、非常に便利だ。アパートから、電車に乗って、一時間かけて学校に着く。学校の先生たちも職員たちも、みんなが非常にやさしくて、何か問題があっても、気楽に相談できる。

日本に来て、いろいろなところに行って、メディアを通して見てきた日本と実際の日本のイメージの違いはやはりある。日本に対する印象といえば、日本人の礼儀の正しさと細かい心遣いをしみじみと感じていた。買い物や外食をしたとき、スタッフのサービスは本当に気持ちいい。日本料理も好きだ。総じて言えば、日本に留学して本当によかったと思っている。



フジテレビにて



夢中の日本との「再会」

中国・浙江工商大学 陳 旭

天高く爽やかな実のある秋になり、風光明媚な日本での留学生活は段々終わりに近づいてきました。長いようで短いこの半年、二松学舎大学では貴重な専門知識を身につけたことにとどまらず、数多くの先生方や友達との深い友情を作りました。これにまさる喜びはありません。

今年の3月17日、ちょうど桜の季節に日本に来ました。川沿いや道端の至るところに桜が咲いていることに驚きました。時々、桜の花びらが部屋に舞い込んだり、肩についたりして、なんだか、アニメや夢の世界に入り込んだような錯覚におちいりました。日本に来たのは初めてですが、夢の中で何度も日本や日本の桜を見たことがあります。今回は正に夢に見た日本との「再会」ではないでしょうか。これが日本に対する初めての印象でした。

二松学舎大学は歴史が長く伝統があり、また漢学についての権威です。私は、二松学舎大学での留学したことや、二松生になったことを誇りに思っています。

そろそろ一年半の留学生活に終止符を打つところですが、私がここまで辿りつけたのは、先生や友達の応援があつてのことだと思っています。

最後に、この半年にいろいろお世話になった日本の先生方、留学生たち、そして日本での友人の皆様に感謝の意を表したいと思います。日本での学び、考え、思ったことが必ず一生忘れられないよい思い出となり、今後の勉強や仕事にも役立つものであると確信しております。



千鳥ヶ淵にて、留学生とともに（筆者中央）



交換留学 - 人生の貴重な体験

中国・浙江工商大学 陳 麗暁

留学の時間はあっという間に過ぎてしまいました。人生初めて異国の土地を踏んでからもう四ヶ月たちます。四ヶ月前の不安と期待と共に出発した自分と比べれば、今の私は日本での生活にずいぶん慣れました。毎朝サラリーマンと一緒に満員電車で押し込まれ学校へ行き、夜は制服を着ている高校生と一緒に居眠りをしながら帰ります。時々、自分がもうこの社会のメンバーになったような気がします。

初めて一人暮らしをして、初めて着物を着て、初めて満開の桜を満喫する……短い時間ですけど日本でいろいろな「初めて」を体験しました。日本の社会や文化を実感することで、日本人の礼儀正しさや、繊細な国民性と入念な仕事ぶりにとても感心しています。

例えば、エレベーターから出る時、ドアに近い人が必ず開のボタンを、最後の人も出るまで押しています。買い物する時、店員さんは必ず丁寧にお辞儀しながら送ります。交差点で車が必ず人に道を譲ります。このような小さいことから日本全社会の民度を窺い知る事ができました。

日本での生活はもうそろそろ終わります。この留学を貴重な体験として、卒業までの大学院生活をより一層、充実させていきたいと思っています。



仙波東照宮の前で



初スキーの思い出

中国・浙江工商大学 劉麗蓉

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」この「雪国」の一文が私の留学生生活を語るのに、最もふさわしいと思う。なぜなら、浙江工商大学から来た交換留学生の中で

は、日本でスキーを体験したのは、おそらく私が初めてだからだ。

2016年2月3日、武永先生をリーダーとする6人のチームは東京駅より新潟に向かって出発した。先生の話によると、私たちの通るトンネルは『雪国』に出てくるトンネルより少し短い。しかし、トンネルを抜けたら、空から牡丹雪がユラユラと降ってくるのと、屋根の上に雪のいっぱい積もった銀世界とを目のあたりにすると、『雪国』に書いてあるのと同じぐらいの感動を感じたと思う。

スキー場では先生が選んでくださったルートでスキーを満喫した。初スキーなので、いっぱい転ぶのは仕方がない。しかし、新しいことに挑戦することによって、もっと自分を好きになれる気がした。そして、もっとこの世界を好きになれる気がした。

忙しくて充実した一年間で、振り返る暇もない。しかし、この一年間の留学経験はきっと私の今後の人生に、シルエットのように何かのきっかけで蘇える時が来る。そして、それを思い出すたびに、思わず唇が微笑んでいるに違いない。



九段坂の桜



日本、またね

台湾・中国文化大学 許瑞玲

憧れていた東京留学はもうすぐ終わります。今まで旅行で行ったことがなかった所へ行き、できなかったことを沢山やりました。

二松学舎大学での授業は話す機会が多く、レポートや発表も台湾よりずっと多いです。今まで日本語でレポートを書くことがなかったので、本当に悩みましたが、振り返ると本当にいい勉強になりました。

そして、春セメになり書道の授業を取りました。ずっとやりたかったので、まさかこの小さな願いが日本で実現できると思っていませんでした。筆の持ち方から学び、なかなかうまく書けませんが、勉強できてうれしいです。

一年日本にいたので、日本の四季も感じられました。秋のイチョウ並木、春には満開の桜、このような風景は初めてでした。北海道へ旅行し、冬の美瑛もとてもきれいでした。

しかし、私の一番好きな景色は、皇居の桜田門に入ったところに建ち並んでいる丸の内ビル群です！少し変わっているかもしれませんが、私は高層ビルが多く建ち並んでいるのを見ると落ち着くのです。初めてこの景色を見た時の気持ちは一生忘れません。

この一年間は多くの人のおかげで本当にとっても貴重な体験をし、いい経験になりました。必ずまた日本に来たいと思います！



東京タワーあたりでサイクリング



ありがとう

台湾・中国文化大学 曾運宏

日本に来てから、一年が経とうとしています。

この国に来たばかりの最初の一週間は、何も分からなくて、色々なカルチャーショック受けました。例えば、台湾にも優先席はありますが、日本の優先席とは少し違います。台湾では、譲られた方は殆ど喜んで座りますが、日本ではそうでもないようで、色々なところに気を配らなければなりません。

あとは、やはり言葉の問題が大きいです。わずか二年間ですが、台湾で日本語を必死に勉強してきました。しかし、いざ使う時には、まともに話せませんでした。

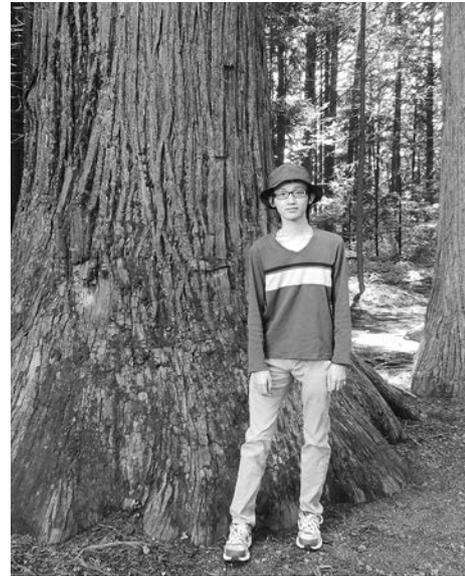
最初の一週間は、話すどころか、聞き取りすらできないという状態で、とても不安でした。

しかし、今は大分上達しました。日本語能力の面でも(聞き取れなかったりすることも時々ありますが)、日本文化に関する知識の面でも、留学前より格段に進歩しました。

僕は留学中に3回も京都に行き、それまで講義でしか聞いたことがなかった事について、自分の目で直に確かめることができました。方丈記の中にある「仁和寺」や、葵祭が行われている「上賀茂神社」など、色んな所に行き、そして富士山にも行きました。

日本に来て一年、辛い時もありましたが、楽しかった時間です。

ありがとう、出会った皆さん。ありがとう、日本。



富士山神社にある大きな木の前で

平成28年度 夏期中国語・歴史文化研修報告

今年で第19回目を迎えた中国語・歴史文化研修は、8月7日から8月27日の3週間の日程で、海外協定校である北京大学歴史学系にて行われました。今年は文学部、国際政治経済学部から計17名の学生が参加しました。

北京大学短期海外研修を終えて

文学部 中国文学科2年 大城 優妃



今回の北京大学短期海外研修を通して体験したこと、学んだことはこれまでに経験したことのない充実したものとなりました。この短期海外研修に参加しようと思ったきっかけは、以前から中国語と中国への留学に興味があり先生方や先輩方からも一度は留学

に行ってみるのも良い経験になると勧められたので参加することを決めました。

私自身北京へ行くのが初めてだったのと、中国語のレベルがあいさつと簡単な会話ができる程度だったため、北京へ行ってからの生活と中国語での授業についていけるか不安でした。実際、北京に着いて授業に参加すると、4日目頃までは中国語を聞き取るのに必死でしたが、だんだんと中国語に耳が慣れ、授業で先生に聞かれたことに対し中国語で答えることができるようになっていきました。授業の合間や授業後などには、先生と簡単な会話をしたり、お互いの国について紹介しあったりと、とてもいい雰囲気でした。また、中国語の授業だけではなく、中国の文化についても学びました。日中の漢字の違い、京劇の見方、中国古代庭園について、中国に少しでも興味がある人にとっては大変なことになるものばかりです。

授業をこなしながらの北京での生活は、毎日新しい発見ばかりで、当たり前のことですが、普段日本で生活して

いる時とは違う世界でした。北京で生活をしているうちに、現地の学生や先生方と仲良くなり、色々なことを話しました。現地のの人たちと交流していくうちに気付いたことがあります。私の中国人に対する最初のイメージは、冷たくてそっけない感じでした。しかし、それは私が抱いていた勝手なイメージで、実際はフレンドリーで人情深い人が多かったです。自分から話しかけに行ったときは気さくに答えてくれ、相手からも積極的に話しかけてくれました。日本では体験できないような生活を過ごすことができました。

北京大学で過ごしたこの3週間を振り返って今一番思うことは、様々な経験をすることの大切さです。私自身、「経験は若いうちにたくさんしなさい」と言われてきました。その言葉が今とても心に響きます。私はこの北京大学短期海外研修でたくさんの貴重な経験ができたと思います。



北京の思い出(筆者左)

平成28年度交換留学制度

交換留学とは、「二松学舎大学交換留学に関する規程」に基づく、海外協定校への1年間または半年間の留学制度です。

本学では、協定校の中国・北京大学、韓国・成均館大学校、台湾・中国文化大学、中国・浙江工商大学、ハンガリー・エトヴェシュ・ロラード大学、中国・周口師範学院の6校と協定を結んでおり、相互に留学生の受け入れや派遣を行っています。(英語圏の協定校については、現在計画中です)

協定校によって、応募期間や資格、協定校への授業料の支払い等、派遣条件がそれぞれ異なりますので、詳細は「海外留学の手引き2016」を参照してください。

交換留学生紹介

◆中国 北京大学

(平成28年10月～平成29年9月)



劉麗

◆中国 周口師範学院

(平成28年10月～平成29年9月)



衛盼盼

◆台湾 中国文化大学

(平成28年10月～平成29年9月)



孫季榆



林宜樺

◆中国 浙江工商大学 (平成28年10月～平成29年3月)



王姝麗



顏龍龍



程璐璐



畢佳佳

国際交流センターからのお知らせ

◆第13回外国人留学生日本語スピーチコンテスト

日程 11月26日(土)

場所 九段キャンパス1号館 202教室

すっかり恒例行事となりました、本学の外国人留学生による日本語スピーチコンテストを今年度も開催します。今年は大妻女子大学の留学生も参加を予定しており、より一層の盛り上がりが見込めます。留学生たちが日ごろの勉強の成果を披露する貴重な機会です。皆さんの来場をお待ちしております。

◆国際交流年末懇親会

日程 11月26日(土)

場所 アルカディア市ヶ谷

父母会の助成を受けて国際交流年末懇親会を開催しています。留学生の皆さん、楽しい時間を過ごしなが、新たな1年の抱負について語り合しましょう。

編集後記

◇9月に昨年度から本学に留学していた7名の留学生が留学期間を終え帰国し、10月から新たに8名の交換留学生が本学で学ぶことになりました。短い期間ではありますが、思い出に残る留学生活を送ってほしいと願っています。

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。 E-mail: icenter1@nishogakusha-u.ac.jp